

# 第5回 谷根千

## 耳鼻咽喉科・頭頸部外科フォーラム

日時

2017年9月9日(土) 16:50 ~ 19:00

場所

東京ガーデンパレス 3階「白鳳」

住所：東京都文京区湯島1-7-5 TEL:03-3813-6211(代表)

参加費

1,000 円

情報提供

「非鎮静性抗ヒスタミン薬の最新情報」

田辺三菱製薬株式会社

講演 I

17:00 ~ 18:00

領域講習

座長：後藤 穰 先生 日本医科大学多摩永山病院

### 「健康と病気の接点

ーバリア機能からみた耳鼻咽喉科診療；アレルギー性鼻炎、

アトピー性皮膚炎、気管支喘息および好酸球性副鼻腔炎へのアプローチ」

演者：三輪 正人 先生 日本医科大学付属病院

講演 II

18:00 ~ 19:00

共通講習(医療安全)

座長：大久保 公裕 先生 日本医科大学付属病院

### 「医療事故調査制度開始後の現況」

演者：馬場 俊吉 先生 アクアリハビリテーション病院

※各講習とも、開始5分経過後は受講証引換券をお渡し出来ませんのでご注意ください。

\* 講演会終了後、意見交換会を予定しております。

マイカーでご来場の際には、意見交換会での飲酒はお控えくださいますよう、お願いいたします。

共催：橘鏡会・日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉科・田辺三菱製薬株式会社

## 健康と病気の接点

### バリア機能からみたアレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、気管支喘息および好酸球性副鼻腔炎へのアプローチ

付属病院 三輪正人

私たちは生体恒常性を保ちながら、日々生きている。そのため、外界との境である上皮は、生きる上で必要なものは取り入れ、異物や病原体はブロックする選択的バリア機能を担っている。生体バリアは、常在細菌叢からなる生物学的バリア、上皮細胞、上皮間および分泌物による物理化学的バリア、免疫学的バリアから構成されている。近年アトピー性皮膚炎の病態は、アレルギー性炎症とバリア機能異常の両者で形成されると理解されている。一方、気管支喘息、アレルギー性鼻炎など他のアレルギー疾患や難治性炎症性疾患の代表である好酸球性副鼻腔炎、好酸球性食道炎なども、バリア機能の破綻が病態形成の第一段階である可能性が指摘されている。

今回は、医療のフロントラインであるクリニックでの耳鼻咽喉科診療の将来像を含め、バリア機能の観点から展望する。

文献 1)三輪正人:「研修ノート」上皮は考える 耳鼻臨床 104:918-919, 2011. 2)三輪正人:特集 アレルギー疾患とバリア障害 VIII. 鼻粘膜バリアとアレルギー アレルギー・免疫 24: 768-776, 2017. 3)三輪正人:「アレルギー性鼻炎」疫学 最新醫學別冊 診断と治療の ABC 127 in press, 2017.

## 医療事故調査制度開始後の現況

アクアリハビリテーション病院 馬場俊吉

1999年に、横浜市立医大の患者取違事件、広尾病院の薬剤取り違い死亡事故と医療法21条問題が話題となり、医療事故、異状死をめぐる問題がマスコミの注目を浴びた。2005年には日本医療安全調査機構が、解剖結果を基に死因を究明する「医療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」を開始した。2006年には福島県立大野病院の執刀医が逮捕されるという問題が起こり、これらの問題を踏まえ、厚労省が2012年から13年に医療事故の原因究明と再発防止の手法を検討する「医療事故に係る調査の仕組み等のあり方に関する検討部会」を立ちあげた。2014年にこの検討結果から「医療事故の調査を盛り込んだ改正医療法が成立した。2015年3月に医療事故調査制度の省令、通知が示され10月1日に「医療事故調査制度」が施行された。「医療事故調査制度」が発足し、1年が経過し医療事故調査・支援センターから報告がなされたので、その内容をまとめた。また、「医療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」で取り上げられた、耳管通気による死亡事例を提示した。